だんだん便り

新年号（第3号）

2018年1月10日

一般社団法人だんだん会

408-0035　山梨県北杜市長坂町夏秋 918-5

・法人本部　**0551-45-9566**

・地域看護センター**あんあん**　**0551-30-7505**

・定期巡回**てくてく24**　**0551-30-7787**

・オレンジサロン**わいわい白州・長坂**　**0551-45-9566**

・グループホーム**わいわい白州**　**0551-30-7566**

408-0315 山梨県北杜市白州町白須 1023

写真に寄せて　　小淵沢在住15年　盆出靖子氏

私が住んでいる地域のどんどん焼きです。行事の２・３日前には、子どもたちが一戸づつまわり、正月かざりなどを集めていってくれます。当日、地域の消防団の人たちの手で畑のまん中に形よくつみあげられていきます。この年の飾りものは目を引くようなみごとなものが色あざやかにつまれていました。どんな願いや思いが託されているのか。火がつけられた飾りものが燃え上がっていく様子をみんなで見守ります。子どもたちは、火の勢いが鎮まりかけると手に手に花もちをもって火にあぶっていただきます。

今年がよい年でありますように！！

月見里県　星見里市

ここって、何処？　　実は・・・

北杜市の概要（平成30年1月1日現在）

山梨県北西部に位置

（八ヶ岳南麓地域、塩川釜無川流域地域）

人口　４７，５７４人

（６５歳以上人口　１７，５５６人）

高齢化率　　３６．９％

※（全国平均）　26.0％（平成２６年９月）

＜年齢別高齢者人口＞

前期高齢者（74歳以下）　８，７３１人（４９．７％）

後期高齢者　８，８２５人（５０．３％）

面積　６０２．８９㎢

首都圏から近く、別荘・移住者が多い地域

新年にあたり一言　（理事・監事より）

理事長：宮崎和加子
前）全国訪問看護事業協会事務局長
元）特定医療法人財団健和会
　　訪問看護ステーション統括所長
元）社福）すこやか福祉会
　　グループホーム担当理事

2018 年の始まりです。日本社会・世界全体をみると不安がいっぱいの年明けです。世界のあちこちで内戦・紛争があり、日本も周囲の国との関係の緊張が高まっています。また国内では気候変動による影響かこれまでにない自然災害が頻発し、日本中、どこにいても安心して日常生活を送れるといえない状況といえるでしょう。それに加え、日本の政治については不信感が募るばかりです。憲法をめぐる動き・政治家の資質・社会保障費の軽視・・・と、傍観していいのだろうかと焦りさえ感じます。自分自身の“立ち位置”をどこに置くのか、一人一人が問われている時だと思います。

そんな中で、だんだん会は、社会保障の分野、特に高齢者・病人の医療・介護・福祉の充実に向けて、山梨県北杜市で、非営利で良質な事業を目指して実践活動を行っています。

だんだん会の活動を振り返ると、一昨年（2016 年）は法人を立ち上げ「グループホームわいわい白州」の建築でした。そして 2017 年は、4 つの事業を立ち上げ、職員はゼロで出発しましたが、現在在籍職員は 25 名となりました。次々と始めることになった事業を職員みんなで力を合わせて、何とか立ち上げ軌道にのせる努力をしてきたというのが実際です。

まだ〝ひよこ状態“のだんだん会の事業に担い手として参加してくれた職員の皆さん、サービスの利用者・入居者の皆さん、様々な形で応援・協力・主体的にかかわってくださった皆さん、本当にありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、2018 年はどんな年になるでしょう。

①事業の安定的な運営・・・グループホームわいわい白州は特に人材確保と支援の内容の充実、「あんあん」「てくてく 24」は利用者確保・人材確保が課題です。10 月から開始した「てくてく 24」は少しずつ利用者が増えていますが、一日複数回の訪問介護・看護はたぶん、この地域では利用が広がっていくだろうと思います。それに対応できるような人員体制を整える必要性を感じています。

②地域住民の皆さんに役立つ非収益事業・・・介護保険での収益事業ではなく、住民の皆さんに役立つ様々な活動を計画しています。例えば、昨年わいわい白州の開設祝賀会で実施した講演会・シンポジウム（『大好きな北杜で最期まで』上野千鶴子氏他）のような一緒に考える場作りを考えています。定期的に講演会やシンポジウムなどを開催し、老い方・まちづくり・助け合い方など。他にも提案を受けています。

③新しい事業を模索・準備する年・・・いろいろな方から「こんなこともやろうよ」「こういう内容のことを実施してほしい」「いっしょに夢を実現しよう」などという提案やお誘いを受けています。私自身も実現したい事業を胸に秘めていますが、だんだん会として、住民・専門職と一緒になって模索・準備する年にしていきたいと考えています。

4 月の同時改定（医療保険・介護保険）は、私たち事業者からみると、かなり厳しい内容になりそうです。そういう中でもしっかりと経営を守り、職員一同頑張ってまいりますので、今年一年、どうぞよろしくお願いいたします。

新年にあたり一言　（理事・監事より）

理事：八巻和彦

◇早稲田大学教授

だんだん会の地元（山梨県北杜市）で生まれ育ち、今も生活の本拠をおいている者の一人として当会の理事となっている私です。しかし福祉の分野にはまったくの素人なので、皆さんに教えてもらいながらなんとか務めています。私の役割は、素人の視線から、そして地元民としての視点からだんだん会の様々な活動を見守り、支援することだと考えています。

その意味で嬉しいのは、発足して間もないだんだん会が、地元の人びとや自治体から大きな期待をかけてもらっており、会の方もその期待に応えるべく、現場の方々がしっかりと各自の任務を果たしてくれていることです。

「だんだん会があるから北杜市の老人は幸せだ」とか、「だんだん会があるから北杜に移住してみようか」という声が聞かれるようになれば、とても素晴らしいことだと、後期高齢者である夫婦の間で話しています。

北杜市を流れる釜無川、須玉川、塩川の渓谷に散在する集落には、日本の高度経済成長を下支えしてくれた一人暮らしの老人たちが命の灯をともし続けています。八ヶ岳と茅ヶ岳の麓一帯には、首都圏から移り住んで来た人々が今や前期高齢者となって高原暮らしを楽しんでいます。これらの人びとの幸せと安心を少しでも増やすのがだんだん会の使命だと思っています。

理事：森　眞由美

◇森の診療所所長
◇前）ほくと診療所
◇元）東京都立医療公社多摩北部医療センター院長
◇エーザイ主任産業医

だんだん会の事業が始まりまだ８月。すごい勢いで進んでいるのにびっくりしています。「だんだん会」ではなく、「急速進展会」です。しかもいずれも多少の問題はあれ順調に展開されています。こんなすごいことができるのは、宮崎理事長の強い意志と実行力、そして包容力の力だと思っています。

ほぼ同時に開始した森の診療所（私ども夫婦で行っています。大泉にあります）は、それこそゆっくりゆっくり、だんだんと進んでいます。多くの方々とお会いしお話が出来、しかも少しは皆様のお役に立っているようで、とっても素晴らしい老後の楽しみです。

今年一年、だんだん会がどんな発展の仕方をするのか、楽しみにしています。微力ですが、理事の一人として少しでもお手伝いができれば幸いです。

新年にあたり一言　（理事・監事より）

理事：武井幸穂

◇医療法人社団鼎会理事
◇元）特定医療法人財団健和会副理事長

年末、送られてきたある労働組合の方針文書を読んでいたら、労働条件が劣悪で人手不足の業界の筆頭に介護が上げられていました。この労組方針のような認識は一般にも広がっており、そういわれても弁解できない事業者もいますが、長年介護職員の処遇改善に努力してきた者にとって、たいへん残念なことです。

今年は、介護保険サービスの利用制限や短時間研修による新たな生活援助の安上がりな担い手づくり等ばかりが目立つ４月の介護報酬改定、11 月からは十分な研修・労働条件の担保もなしに外国人技能実習制度に介護が加わります。“安い働き手づくり”“悪貨は良貨を駆逐する”ことを加速させるような制度改変が目白押しです。だんだん会のような良心的な事業体が発展し、医療や介護などの社会保障が国民の生活を支え続けられるよう、私たちも努力を続けたいと思います。

理事：中嶋登美子

◇前）北杜市役所

地元で専門行政職として 38 年「ほくとの将来の姿」を思い描きながら、地域保健・地域看護をやってきましたがなかなか達成感のないまま退職、だんだん会との出会いで、今まで果たせなかったことに立場を変えて再度チャレンジできる機会をいただきました。

２０１７年には、今まで以上の多くの方と知り合い、多くの市民の皆さんのお思いやご事情様を伺うことができた年でした。地域で暮らし続けるために、これから果たすべき役割をしっかり見定めて「北杜（ここに）に住んでよかった」と心から感じられる地域づくりに微力ながら力を注ぎたいと思っています。

今年もよろしくお願いいたします。

監事：石黒秀喜

◇老い支度クリエーター
◇元)厚生労働省
◇前)長寿社会開発センター

私は厚生労働省に 40 年間、その後外郭団地に 10 年間勤務して、昨年 10 月に退職し、今は自由業「老い支度クリエーター」と称して、ときどき市民講座などで講演をして楽しんでいる者です。縁あって当会の監事をしています。

不老長寿は万人の願いですが、長生きするほどに役割の喪失、行動力の低下、認知機能の著しい低下（認知症）という現実に直面します。だんだん会の基本姿勢は、介護を必要とする高齢者に、その人のプライドに配慮したケアを提供することです。そして万人が必ず遭遇する「人生の最終段階」が訪れた場合は、生活の場で平穏に最期を迎えることができるような支援も行っています。

超高齢社会が進行する状況下では、安心して老いることができる地域づくりも重要なテーマと考えています。だんだん会は地域の潤滑油となって、皆様と一緒に老いを考え、安心できる地域づくりに貢献する所存ですので、どうぞお気軽にお立ちより、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。みなさまのご多幸をお祈り申し上げます。

今年の抱負　グループホームわいわい白州

わいわい白州の本年の抱負、意気込みは

和気愛相（わきあいあい）

和気藹々、愛をもって、愛想よく、（相）向かい合って、

地域に、入居者に、職員同士、認知症に取り組んでいきます

今年の抱負　オレンジサロンわいわい白州・長坂

前向きになれる元気の源

オレンジサロンわいわい白州は月に3回・長坂は月2回開催されています。

＊

昨年末には「ちょっとした　忘年会」を開催し、一年を振り返っていただきました。その時に皆さんからいただいた言葉からこのサロンに「何か」あることを感じました。

それは、「前向きになれる元気の源」があることでした。

参加されている皆さんの仲間同士で、あるいは元気なスタッフからか、定期的に出かける「居場所」への規則正しい生活リズムなのか、運動量なのか…何処からともなく湧いてくる「エネルギー」をお互いが出し合い、感じ合えていることを実感したのでした。

「前向きになれる元気の源」がサロンの魅力であり、威力であることを感じたのです。

このサロンの魅力や力を、必要としている多くの皆さまに参加して体験していただこうと考えています。地域で沢山のサロンを開催できる支援を目標にしていきたいと思っています。

サロンでは、笑って話して、達成感や充実感、自分の居場所を感じていただけるような支援をスタッフと参加者で作り上げていこうと思います。

参加希望者はこれからも増えるでしょう。

「会話が人と人とをつなげ」大きな地域の輪になることを今年の抱負としたいと思います。

今年の抱負　地域看護センターあんあん

西室

日本一住みやすいまちづくりを！

あんあんは頑張っていますし、今後もっともっと頑張ります。しかし、大事なことは、関係するみんなで全体的にさらにレベルアップし、名実ともに『日本一住みやすい町に！』いっしょに勉強し、討論し、実践しましょう。

樋川

地域看護センターあんあん」がスタートしてまもなく１年となります。たくさんの出会いの中で北杜市ならではの「家族」という考え方、「暮らし」というものを知ることができました。どんな状況の方でもその人その家族に寄り添って丁寧な看護を提供していきたいです。

内田

私の目標

・利用者さんの目線に立つことを徹底する
・勉強する
・相談する（様々な人・場など）

利用者さんにとって最高の看護を提供できるよう頑張ります！

浅見

チーム力のパワーアップ！

地域の皆様が最期までその人らしく安心して暮らすことができるには、“24 時間 365 日、いつでもどこへでも何度でも”が必要です。そのためにあんあんの看護師６名が力を出し合い分け合い助け合っていきます。

宮崎

地域に求められる

たくましく力量のあるプロの

看護介護集団づくり

中核を！

中嶋

味を出せ！

アラ還保健師の出発

今年の抱負　定期巡回てくてく 24

10 月から 12 月までの 3 か月間で 11 名の利用者さんに『てくてく』しました。今までのところ、利用者さんは、大きく分けて３つの群に分かれます。①**食事・排泄・内服ケア**（朝・昼・夕）、②**ターミナルケア**（10 日間前後の利用・４名）、③**急性憎悪時の日常生活支援**（圧迫骨折・腰痛・重度の火傷など）。

実施してみての実感は、認知症で一人暮らし・日中独居の方々の在宅生活を支えるにはなくてはならないサービスだということ。（生存・日常生活の質の保障）一日３回訪問して支援すると“支えている”という職員側の充実感にもつながります。

また、『看護強化タイプ』で、その方の状態に応じて看護師がかなり頻繁に訪問する体制をとっていることにより、ターミナル期（人生の終末期）の方や腰痛などの一時的な日常生活支援が必要な方に入院ではなく在宅での療養生活継続が可能になることがわかりました。

運営上苦慮することは３つ。①利用者の必要時間帯に応じた職員の確保（訪問時間が重なる）　②短時間ケアでは難しい利用者が少なくない（１時間ずつ一日３回以上という場合もある）
③採算・収支がどうなるか・・・。移動時間が長く効率が悪いこと、また看護師が担当することで収支がどうなるか。そのことを承知して始めた事業。
職員みんなの知恵と工夫で何とか収支ＯＫとなるように頑張ります。

医師からひとこと　吉田和徳先生（吉田医院）

グループホームわいわい白州の上手にある吉田医院には、開設以来大変お世話になっています。入居者の多くの方が吉田先生を主治医とし、日々の訪問診療をはじめ、夜間の急変に対しても快く対応してくださっています。暮れにインタビューさせていただきました。

Q：この地で開業なさっている経緯をお聞かせください

Ａ：白州で生まれ、白州中学校を卒業した地元出身です。仙台の大学を卒業後 8 年間は東北大学病院、東北地方の県立病院に勤務していました。父の病気をきっかけに郷里に戻り、塩川病院、白州診療所に勤務し、14 年前の平成 15 年 11 月にこの地で開業しました。町村合併で白州診療所が閉鎖という噂があったからです。そうすると、高齢者の多い白州の地域の患者が戸惑うのではないと考え、自分が開業すれば患者さんに役立つと考えました。

開業に当たって、通院の足の確保のため送迎車を 3 系統運行することにしました。また訪問診療など在宅医療に力を入れることも考えました。この地は、後方病院があり緊急時に紹介先を確保できることもこの地を選んだ理由の一つです。

Q：すぐ近くにグループホームができて、また主治医として訪問診療をしていて、いかがですか

Ａ：一言でいうと、入居した方が元気に共同生活をし、表情がよくなっていると感じます。この地域で認知症があり一人暮らしの人は少なくないです。一人でいるとしゃべることもなく、どんどん認知症も進むし、どんな生活をしているかが見えません。その点、人がいるところで暮らすだけで刺激になり元気になっているように見えます。共同生活だから入居者同士のトラブルももちろんあるでしょうが、それはそれでいいでしょう。

診察室の吉田先生

僕としては、“いい顔で穏やかに生活している”だけでほっとしています。

グループホームの建物ができたことでとても喜んでいます。実は廃墟になっていたあの地に「吉田医院」を開設することも検討したことがあるんです。明かりがつく家ができて安心です。僕は、歩いて往診に行ける距離で何かと近い関係ですね。

Q：だんだん会では、在宅生活支援のサービスとして訪問看護事業（あんあん）と 10 月からは定期巡回サービス（てくてく 24）を実施しています。だんだん会へ一言お願いします。

Ａ：グループホームは、いわば店を開けている様なものです。在宅サービスは、こちらから出かけていくので、住民から見るとありがたいと思います。僕らの訪問診療も、だんだん会の訪問看護、定期巡回も他の事業所のケアマネの仕事も、すべて地域（自宅）で暮らし続けられるように支えていく仕事です。

僕らは、ある意味で**『終活のプランナー・支援者』**の仲間だと思います。地域で暮らす高齢者や病人が、本人・家族が望む生き方を全うできるように支援し、人生の最終章を、本人が“どうしたいのか”を最も大事にして、さまざまにご支援させていただく・・・。

だんだん会はいい人材がそろっているので、一緒になっていい地域づくりをしましょう。